

乗組員の方からお話を聞きました。



◆ 佐藤 俊貴 さん (セメント専用船の航海士)

父親にあこがれ、3年間、遠洋に行く漁船に乗っていましたが、国内を行き来する船に乗るのが夢で、セメント船をえらびました。機械や設備の整備が仕事ですが、いろいろなことが学べて楽しい日々です。今は3等航海士ですが、将来は船長になりたいと思っています。



◆ 菅原 和義 さん (RORO 船の機関長)

船に乗って38年になります。これまでに、貨物船、タンカー、鉱石船、ケミカル船、コンテナ船に乗ってきました。機械いじりが好きでエンジニアの道をえらびました。機関長の仕事は、航海中どんなことがあっても船を止めてはならないということです。音やにおいなど、いつも機械のようすに注意をしています。この技術を若い人に伝えたいと思います。



◆ 伊藤 厚 さん (フェリーの事務長)

子どものころから船が近くに見られる明石で育ちました。フェリーに乗って7年になります。事務長の仕事は、お客さんのお世話、客室や売店やレストランなどの管理、船全体の事務などいろいろです。また、乗組員が、気持ち良く働けるように気をつけています。お客さんのお世話をして「ありがとう」と言われるとうれしいですね。



● RORO船

クレーンを使わずに、船の前後からランプウェイと呼ばれる橋をのぼし、直接トラックやフォークリフトが船内に入って、貨物を積み降ろすことができる船。